東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2010年11月19日

預言者ムハンマドの導きのメソッド

親愛なるムスリムの皆様。クルアーンでは、預言者ムハンマドはアッラーによって遣わされた招待者とされています。そしてこのお方が、全ての人々へ吉報を伝え、警告をもたらす人として遣わされたこと、従ってその預言者性が普遍的なものであることを明らかにしています。

預言者ムハンマドは、最も近しい人々から始め、アラビア半島の境界を越えて行なった教えへの導きという活動を、預言者としての任務についていた時期を通し、成功裡に行なっていました。その導きのメソッドは、首尾一貫し、論理的で体系的、現実的なものであり、成功へと導く特性を持っていました。

親愛なるムスリムの皆様。預言者ムハンマドの教えへの導きが成功していたことには、様々な要因があります。第一に、彼ご自身が招いている教えに誠実に結びついていたこと、教えの規律を自らの生活で実践していたことが挙げられます。言い換えるなら、義務と定められたことをまずご自身が実践し、禁じられたことにもまずご自身が従い、近親者に勧められていたのです。

預言者ムハンマドの教えへの導きが成功していたことのもう一つの要因は、失望したり悲観的になったりせず、その活動を常に忍耐、強い意志、信仰、そして決意を持って続けていたことです。このお方は教えへの導きにおいて、社会的なつながりを欠けることなく継続させ、このつながりから大きな益を得ていました。例えば、ムスリムとなった人々と並び、まだ入信していない親戚や周囲の人々とのつながりも強固に保っていました。社会におけるその影響力を鑑み、部族の長である人々にも特別な配慮を示していました。教えへの招きを行なうための集会を催し、市場、定期市、家といった人が集まるあらゆる場において布教活動を続けていました。イスラームへの導きにおいて、決して誰も、どのような職業の人も、軽視することはありませんでした。

親愛なるムスリムの皆様。

預言者ムハンマドは、相手を知ることに重きを置き、彼らの感情、要望、個人的特質を配慮し、彼ら自身に価値を置き、配慮し、より親しくなれるよう努力していました。活動において憐れみ、寛容、敬意、穏和さ、慈しみ、慈悲を、憎悪、怒り、険しさ、暴圧のかわりに選択していました。クルアーンでは、預言者ムハンマドが神の恵みによって人々に優しく振舞っていることが述べられています。手荒く、険しい人であった場合には人々がその周囲から散り散りになって去っていくであろうとされています。

慈しみの預言者は、決して誰にも、イスラームを強制しませんでした。なぜならこのお方の務めは人々を無理やり教えに押し込むことではなく、イスラームを伝え、忠言することであったからです。人々を無理にイスラームに入信させようとすることは、望まれるものとは逆の結果をもたらすでしょう。イスラームが強く否定し、拒んでいる、偽善という状態を広めることになるでしょう。人々を偽善者とするでしょう。しかしイスラームは、誠実であること、心から信じることに大きな価値を置いているのです。さらに、預言者ムハンマドはその活動において決して見返りを求めることはありませんでした。クルアーンでも、彼の忠言や吉報を伝える任務に対し何の見返りも求めていないことが示されています。その死後も、歴史を通してムスリムは、イスラームへと導くことを自分たちの欠くことのできない務めとしてきました。

預言者ムハンマドを自らの道標とする人はなんと幸福なことでしょう。そしてその導きを全人類に届けようとしている人はなんと幸せなことでしょう。